

## 歌唱のためのフランス語発音訓練に関する研究ノート(2)

Une étude pour l'entraînement de la prononciation française pour le chant.

(II: Travail d'articulation des consonnes)

立木 稠子

Shigeko TAKI

### 第二章 子音

#### I 基礎的子音の発音について

##### (1) 各子音の発音法

B [b] base bal baiser belle béton beurre besace beugler bijou bord sabot  
bout butte bon banque bain

C [k] a, o, u, 及び子音の前にある時。語尾に来る時発音される場合もある。

café cœur reculer sucre lac chic

[s] e, i, y の前にある時。

ceci cigal cycle

a, o, u の前で、C を [s] と発音するためには cédille(ç) を付ける。

ça reçois reçu Français leçon

\*以上の他に、ch+母音の場合 [ʃ] と発音される。

chat chaise chic chose chou chuchoter chanson

D [d] dame modèle départ deuil de dire donner douche dur dans dance  
don

\*但し、リエゾンをする場合 [t] となる。grand arbre

F [f] face femme fermer feuille feu fils forme faute fou fuir fantaisie  
fond fin

G [g] a, o, u 及び子音の前にある時。

gare guerre guide gorge goût légume grâce glace grand grotesque

[ʒ] e, i, y の前にある時。

géant geler gilet girafe gymnastique gent genre gingembre

\*以上の他に、gn+母音の場合 [ɲ] と発音される。

agneau seigneur cygne montagne

H フランス語ではHは発音されない。

但し有声の h と無声の h があり、後に述べるリエゾンの対象となるのは、無声の h だけである。(尚、有声の h の場合辞書では ʰ 等の印で示してある。)

ʰhabiter homme ʰôtel heure hiver hélas ʰuit ʰéros ʰaut  
ʰazard ʰarpe

J〔3〕Jardin jet je jeudi joli joie jouer juste jambon juin joindre joncher

K〔k〕kaki kepi kilo

L〔l〕là lettre lever lit loger lourd lui lancer lin long lundi loin

〔j〕l, ll が ai, ei, eui の後に来る時。及び i の後に来る時の一部。

ail travail soleil abeille seuil feuille fille famille (但し ville)

M〔m〕maman madame mais mer meuble midi mille mot amour mur  
musique main mon moi

N〔n〕nager natur naissance neuf neutre nid note nous nu noix nuit non  
nain nymphe

P〔p〕page Palais paix peuple pilier port pousser puce point puis  
pantalon pont pain

\*以上の他に、ph は〔f〕と発音される。

nymphe philosophe phrase physique

Q〔k〕qualité quart question quelque liqueur qui liquide quoi queue quand  
quinze

R〔r〕rare rat raide raisin réaliser rebelle rire riche robe roi rouge  
rubis ruine ranger rincer rond

S〔z〕母音に囲まれた s は濁って発音される。

crise maison arroser raisin isoler……

〔s〕その他の s は澄んで発音される。(但し語尾は発音されない場合が多い。)

sage sans sec séduire saigner se sœur si sauf sauce sous sur  
soin suivre son singe sembler sentiment

T〔t〕table tache tête vérité te amateur tigre torche tortue toucher tu  
tante tempête timbre matin ton tombe

\* th と綴られた時も、発音は同様に〔t〕である。

thé théâtre thème mathématique

V [v] vacance vague vert velours veuf vif voler vous vue voix avant  
vin

W 外来語にのみ用いられる。

[v] ドイツ語系の語、wagon wagnérien

[w] 英語、オランダ語系の語 whiskey

X [gz] ex+母音の場合

exact examen exercice exemple exil exaucer exubérant exigeant

[ks] その他の場合

expansion texte extérieur exposer index excuser axe oxygéner

Z [z] zèbre zèle zénith zéphire zéro

(2) 子音発音上の注意点

(a) 複合子音字の発音

前述の発音法の説明の中で、\*印で記した複合子音の発音をまとめて確認する。

ch [ʃ] gs [ʒ] ph [f] th [t]

(b) 二重子音字の発音

フランス語に於て、二重子音（同じ子音が二つ重なる場合）は、例外を除いて、一つの子音と同じ様に発音され、促音にはならない。

cc accomplir accoucher raccommoder

ll ville colle colline collègue

(但し、illusion collection illustre)

mm femme pomme homme hommage comme

(但し、immense immaculé immédiat)

nn donner sonner sonnette penneau

pp développer frapper enveloppe

rr arracher arranger arriver terre

tt nette nettoyer lettre gratter

(c) 語尾の子音字の発音

フランス語に於ては、原則として語尾の子音字は発音されない。

但し、下記の子音字は例外的に発音される場合がある。(c, f, l, r, s)

c lac avec chic bouc bec donc roc

f administratif bœuf œuf vif veuf ouf

l avril bal fil fonctionnel sel sol

r amour mourir fleur tour cœur sœur

s bis fils lis mars omnibus os ours

(d) 連音 (リゾエン) について

フランス語の一つの特色と言える liaison (連音) を簡単に説明すると、発音されない子音字で終る語に続いて、母音又は無音の h で始まる語が来る時、この発音されない子音字を次の語頭の母音又は無音の h とつなげて発音する事である。それについて幾つかの規則があるが、詳しくは前著 (紀要第24巻 “フランス歌曲の演奏” 抄訳 p.64~66) を参照されたい。

## II 舞台語発音のための演習

基礎的な子音の発音について勉強して来たが、次に舞台語発音の勉強に入ろう。舞台語はその国の文化と伝統を集約した言葉として、正確で美しくなければならない事は、どの国にも共通した条件である。殊に自国語の美しさに愛着と誇りを持つフランスには、舞台語発音訓練のための厳しいメソッドがあり、今日も又新たな研究や試みが続けられている。

その中でも、発音の骨格をなす子音の発音訓練は重要な位置を占めている。子音は少ない母音以上に国語によって異なるが、日常生活に於て、子音発音を意識する事の少ない日本人にとっては、この子音の発音訓練は不可欠の要素であると言えよう。

(1) 調音点\*による子音の分類 (\*調音点：発音する為に使う発音器官。point d'articulation)

1. 両唇子音 b, p, m

2. 上歯+下唇子音 f v

3. 舌+上歯茎子音 d l n t

4. 舌+硬口蓋子音 gn r

5. 両歯子音 ch g(e) j s z

6. 喉音子音 g(a) k

(2) 発音演習

1. 両唇子音 b p m

調音点は両唇。即ち、上下の唇を合わせる事によって形成される子音である。音声学的に、最も単純な子音の一つでもある。それだけに横隔膜とのつながりも直接的で分かり易い。但し、日本語に於ては唇の使用を余り意識しないので、先ず唇を認識し、更にそれをうまくコントロールする為には、かなりの訓練が必要となって来る。

① 子音のみの発音練習

唇を十分認識して、その上で先ず軽く子音を発音してみる。 b, p, m

② 子音に母音を加えた発音練習

先ず歯を食いしばって次の音節を発音する。(規則正しいリズムで。)

pppa, bbba, mmma……

次に歯を食いしばらずに同様の音節を発音する。

以下様々な練習方法を試みる。

ba, be, bi, bo, bu, bou, beu, ban, bon, bin, bun……

ba, pa, ma, be, pe, me, bo, po, mo, bu, pu, mu,

bou, pou, mou, beu, peu, meu, ban, pan, man,

bon, pon, mon, bin, pin, min, bun, pun, mun……

③ 単語の発音練習

(前項参照の事)

2. 上歯+下唇子音 f v

調音点は上歯と下唇。即ち、上歯と下唇が触れる事によって形成される子音である。(無声音が f となり、有声音が v となる。)この子音グループは日本語に存在しないためか、特に日本人にとって極めて発音が困難なものの一つである。f について言えば、歌唱の時点で正しい調音点を使って発音されている例は極めて少ない。甚だしい場合は、日本語の「ふ」をもって代用していると言う驚くべき実情である。又、v について言うならば、調音点が正しく認識されていないために、B と混同する者が多い。こうした場合、先ず v の発音を正しく確立した上で、B と区別する訓練をしなければならない。

① 子音のみの発音練習

上歯で下唇に軽く触れて f, v を発音する。

- ② 子音に母音を加えた発音練習  
(前項に準ず。)

- ③ 単語の発音練習  
(前項参照の事。)  
(追加)

fleur France infidèle information fort bœuf tarif confiance fiancé  
transfigurer

vivacité vivant vivre veuve travail savon tardive fauve brave avec  
avance

- ④ vとbの練習

vin—bain ville—bile vont—bon  
vague—bague vu—bu livre—libre  
viens—bien veau—beau vallon—ballon

### 3. 舌+上歯茎子音 d l n t

調音点は舌と上歯茎。即ち、舌を上歯茎の内側に付ける事によって形成される子音である。"la"の発音を例にとってみよう。先ずlを発音するために、舌尖が上歯の付け根(上歯茎)の内側に付く。続いてaが発音される事により舌尖の緊張は解放され下歯の付け根に戻り、laの発音が終る。大切なのは、laが発音される直前に、舌尖が上歯茎に付くと言う。調音点が正確に準備される事なのである。

- ① 子音のみの発音練習

十分に調音点を意識して、子音だけを発音してみる。(特にdの前にnが入らないように注意する事。) d l n t

- ② 子音に母音を加えた発音練習  
(前項に準ず。)

- ③ 単語の発音練習  
(前項参照の事。)

### 4. 舌+硬口蓋子音 gn, r

調音点は舌と硬口蓋。即ち、舌が硬口蓋に触れる事によって形成される子音である。このグループは日本語に存在しないが、正しい認識と習慣を持てば、それ程難しい発音ではない。但し、r(舞台語に於ては巻き舌である。)と、前述のlを混同する者が多い事は遺憾である。これは厳格に言えばlもrも存在しない日本語を話す者にとって、かなり集中した訓練と認識が要求されるだろう。しかし、これは習慣になるまで訓練しなければなら

ない課題の一つである。何故なら、lとrを取違えると意味が異って来るか、又全然意味をなさなくなり、これは何れにしても、言葉の発音にとって致命的なものとなるからである。

① 子音のみの発音練習

gn

r 前にも述べたように、舞台語は巻き舌である。尚巻き舌のできない人のために、次の訓練をアドバイスする。

trrrra ささやくように、しかしエネルギーに30回。

drrra trrra と同様に。

次に、普通の声で30回ずつ。

tratata tratata……

dradada dradada……くり返し発音する。

② 子音に母音を加えた発音練習

(前項に準ず。)

③ 単語の発音練習

(前項参照の事。)

(追加)

sourire chercher courage drôle rouler ignorer prélude religion sérénade terre ivrogne

④ rとlの練習

rat — la reine — laine riz — lit robe — lobe croche — cloche roi — loi  
rein — lin rond — long pire — pile

5. 両歯子音 s z ch j ge

調音点は上下の歯。即ち、上下の歯を合わせる事によって形成される子音である。その他唇や舌の補助的な役割の大きい子音もある。

(a) 合わされた上下の歯の間を、息が通り抜ける時に発音される子音。 s, z

(b) 唇を立て、舌をやや上向きに緊張させた上で、合わされた上下の歯の間を、息が通り抜ける時に発音される子音。 ch, j, ge

① 子音のみの発音練習

(a)、(b)の調音点を十分に意識して子音だけを発音してみる。 s, z, ch, j, ge

② 子音に母音を加えた発音練習

(前項に準ず。)

③ 単語の発音練習

(前項参照の事。)

(追加)

base — basse mars — marche torse — torche serre — chère sien — chien  
cache — cage chambre — jambe charmer — jamais chant — gent chou —  
joue songer — joncher

6. 喉音子音 K (que), g

調音点は喉。即ち喉に息があたる事によって形成される子音である。その生理的調音過程上、喉に力を入れ過ぎて声帯を痛めやすい子音なので、腹筋による息のタイミングの認識及び訓練が必要である。

① 子音のみの発音練習 k, g

② 子音に母音を加えた発音練習

a ka a ka, a ga a ga と正確な間隔を置いて発音する。その時、顎は脱力して落としたまま。発音の度に動かないように。

③ 単語の発音練習

(前項参照の事。)

(3) 歌唱のためのアドバイス

第一章で勉強した母音が歌の施律をなすものであるように、この第二章で勉強した子音は歌の骨格をなすものである。歌唱に於ての発音の不明瞭さは、何語に限らずしばしば指摘される欠陥であるが、これを具体的に観察すると子音の発音に原因があると言っても過言ではない。特に日本語にない子音 (F, V, R 等) を歌わなければならない我々は、その現実を十分に認識し、訓練すべきである。分けても発音の正確さと美しさを身上とするフランス語を歌う場合、厳しい訓練が要求される事は当然であろう。声楽家にとって、オペラに於ては勿論、詩を歌う歌曲に於て言葉が不明瞭であると言う事は致命的な事である。共に聴き手の期待を裏切りテキストの理解を不可能とするものだからである。声楽家が、いたずらに美しい声の鳥としての演奏ではなく、知性と感性を表現し、共感を得る真の芸術家としての演奏を可能とするには、先ず基本的な訓練に対して誠実に取り組む姿勢を措いて無いと信じる。

〈参考資料〉

“Entraînez-vous à Articuler!” Louise Matha de Parrel 著 (G. Doin & Cie)

“フランス語入門” (Le français pour vous)

数江讓治著 (白水社)